

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900178		
法人名	福岡地所シニアライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ユトリア博多		
所在地	福岡市博多区博多駅南3丁目4-36		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果確定日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成26年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当施設は平成26年3月に開設したグループホームです。同じ建物の中に「小規模多機能居宅介護」「訪問介護」「サービス付き高齢者向け住宅」を併設しております。認知症が進んで在宅生活が難しくなった方でも、リロケーションダメージも少なく移行できるのではありません。街中にある利点を生かし、こまめに散歩やドライブ、外出行事を行うようにしております。「尊敬ある介護」「やさしい介護」「生活の質の向上」を基本に「自分らしくを支える真心の介護」を職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームユトリア博多」は博多駅から近く、利便性の高い立地にある複合型のグループホームである。母体法人が地域貢献を目的に、地域から力を借りて、地域に出来る事をしていく方針で立ち上げられ、ゆとりある生活を目指し「ユトリア博多」と名付けられた。複合型としてのメリットを活かし、将来的にはクリニックの開設も計画されている。都心に近いため、公園や図書館など外とのつながりを持ちながら生活が続けられ、いい意味で高齢者施設然としない雰囲気が出されている。毎日の体操や、屋からの個別対応によるケア、施設内のほかフロア使った歩行訓練など、施設の特徴を活かしたケアを提供しており、外出も積極的に行い、施設合同の行事で、花火大会やカラオケ大会なども楽しまれている。研修にも積極的に参加し、スキルアップにもつながっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの朝の申し送り時と1階事務所で合同朝礼の際、唱和することにより理念の共有に努めています。	施設全体で共通の「ユトリア博多」の理念があり、毎日の申し送りで唱和し、理念を元にした年間目標も定めている。1Fと事業所のフロアそれぞれに掲示もしている。母体法人が大切にする「住まい」を柱に自分らしい生活、地域との関わりが入れ込まれている。開設時の研修で職員にも伝えられている。	入職時に伝達もされているが、中途採用者への伝達や、わかりやすく噛み砕いたグループホーム独自の理念などに関しても話し合われてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一回の地域運営推進会議において、地域行事の情報を伺い、積極的な参加努力をしています。地域主催の行事、朝のクリーン作業や、運動会など少人数でも参加するように心がけています。	地域交流室の開放を市の保健福祉センターと協力して進めており、地域のサークルや連絡会にも使ってもらおうようにしている。施設合同で餅つきやBBQをしたり、入居者と共に近隣の学校行事への参加や、保育園の慰問の受け入れもある。開業時の催しは地域にも声掛けして盛況だった。管理者は認知症キャラバンメイト活動にも参加している。	地域への情報発信や、認知症サポーター活動の協力など、中心的な役割を担っていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学、その他利用者に応じた相談には積極的にに関わり、施設を開放した開業祭などで、グループホームや認知症についての情報を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の運営推進会議を行い、状況報告・情報交換を行っています。また「そうめん流し」等の施設行事と日時を合わせて活発な意見を頂けるよう工夫しています。	議事録は1Fの受付に閲覧用に公開している。自治会長、民生委員、市役所、入居者、家族の参加もされ、当初は小規模多機能と合同だったが、今は別々で開催している。行事と同日にして日頃の様子を見てもらったり、調理レクで作ったものを会議で提供したこともある。開催は家族全員にも案内し、議事録も郵送にて報告している。参加者から意見も多く、面会時のコミュニケーションの取り方など改善にもつながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加して頂き情報を共有したり、福岡市開催の研修に積極的に参加して交流に努めています。	運営推進会議に参加してもらっている担当者とは、開設時からの関わりもあり、会議以外でも意見やアドバイスを頂くことも多い。介護申請時も窓口で訪問機会を持っている。2ヶ月1回発行の「ユトリア通信」も毎回、持参したり、郵送で渡して状況を伝える。地域交流室の使用など相談を受けることもあり、相互に連携体制が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や施設外研修にて職員研鑽に努めています。開設後身体拘束の対象者はいらっしゃいません。	拘束をしない方針で、ベッド転落の多い方へも、布団に変えることで対応し、対象の事例もなかった。ユニットや玄関の入口は職員による電子ロックで管理し、外出要望のある方には見守りや付き添いで対応している。法人の委員会活動があり毎月集まって情報を共有しており、研修参加や、スピーチロックや拘束行為の理解を進めている。	

H26自己・外部評価表(GHユトリア博多)3.31

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や施設外研修に職員を参加させ理解を深めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時、外部から先生をお呼びし制度について学ぶ機会を持ち、その後も外部研修に参加するなど行っています。	開設時研修では司法書士に来てもらって権利擁護に関しての講義を受けた。今までに活用の事例はなかったが、支援が必要などにも母体法人の専門部署や専門家と相談して対応できる体制が取られている。説明用の資料やパンフレットの準備もあり、外部研修の参加や伝達も行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学は常時受けており、契約時には口頭及び書面での十分な説明を行い、同意を得ています。契約後も必要に応じて相談援助を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。運営推進会議において意見・質疑応答を行っています。又、月に一度居室担当者からご家族様へ入居者様の様子をお手紙にてお知らせしています。	家族からは面会時に担当者やリーダーが直接話しを聞くことが多く、運営推進会議への参加で意見が上がったり、家族同士の横のつながりにもなっている。毎月、担当者からの個別の写真付きのお便りを発送し、敬老会などは家族にも参加を案内している。挙げられた意見も対応、報告を行っている。	より深く、家族の意見や要望を引き出すために、アンケートや行事と同日での家族会の検討をされてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時や、毎月の全体ミーティングの場で職員の意見を聞いたり、支配人・事務長・職員で行う全体会議の機会を設けています。	全員が参加するミーティングが毎月あり、内部研修と一緒にいき、2部構成にして施設全体のミーティングも同日に行い情報共有にもつながっている。利用者ごとの担当者が意見や情報を出し合い、最近でもセンサーマットの設置などに関して話し合われた。日頃からも意見を出しやすく、個別面談の機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備や、毎月の全体会議、支配人・事務長との個別面談を不定期だが行っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女問わず年齢や経験年数・他職種の職歴など幅広く雇用しています。	20～50歳代の職員がおり、新卒採用もされて若い職員も多い。法人の保養所など福利厚生も充実しており、休憩時間や場所も確保されている。各種の委員会活動などで拘束廃止、美装、備品などを受け持つ能力を活かしている。新人教育もコミュニケーションを取りながら相互に教え合って取組み、会社からの研修案内もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部伝達研修、資料の回覧などを通して人権教育や啓発を行い、偏見や差別、プライバシーの侵害がないように取り組んでいます。	開設時の研修の中で職業倫理や人権に関して学んだ。市が行う、法令遵守や人権に関する研修にも参加し、伝達研修は資料回覧と講義によって事業所内で伝えられている。	事業所全体としての人権啓発活動として、人権啓発推進センターの利用や、資料貸出、講師派遣等を検討されてみてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や能力に応じて必要な外部の研修への参加や、他施設への研修などを行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ入会しており、協議会の研修や、ブロックごとの勉強会に参加する等交流会・情報交換の場を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、入居前にはご本人様との面談を行うが、必要であれば、入居前、数回にわたり自宅に職員が訪問して本人様との関係を作るなどしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の時から、関係づくりに努め、こまめに連絡を取れる関係を作っています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人様とご家族様の意向を伺い、必要なサービスの見極めを行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様・職員が時間を共にする事の役割を持ち、人生の先輩として敬う気持ちを持ち、馴れ合いすぎない関係を務めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日ごろの様子を報告し、家族様の役割をケアプランに取り入れ、本人様を取り巻くチームとして関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親類の方々と時間も持てるようにし、可能な限り自宅への帰宅、外出支援を行っています。	近隣からの入居者もあり、面会機会も多く、散歩中に挨拶を交わしたり、知人や友人との関係を継続している。家族にも支援してもらって一時帰宅や外食をしたり、今後も個別ケアによって昔なじみの場所への訪問などを計画している。趣味を活かして毎週事業所に届く生花の飾りを入居者と一緒に行ったりすることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・リビングなどでの席などその時々状況に応じた席などを案内し、時には職員が間に入りながら、入居者様同士が関わりあえる環境作りを目指し取り組んでいます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は病院へ面会に行き、情報収集を行い、家族との連絡も小まめに行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人様の暮らしの希望、意向の把握に努めています。	全体でセンター方式の勉強を進めており、一部の方には活用も進めている。家族にも用紙を渡して必要な所を書いてもらって情報を収集している。担当職員が受け持ってアセスメントし、3ヶ月で見直しも行う。センター方式を始めたことで、本人のしたいことや持っている能力の掘り起こしにもつながってきた。後から分かった情報はアセスメントに追記も行っている。	引き続き事業所全体での学習を進めて、入居者全員に対してのセンター方式の活用が進められることに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面談を行い、入居されてからもセンター方式の一部を使って、生活歴・趣味などを把握するように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や申し送りノート、業務日誌の申し送り欄を活用し、職員間の情報の共有に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、居室担当が中心となってご本人様の要望・家族からの意向を尊重し作成担当者や他職種からの意見も聞きながら介護計画を作成しています。	職員一人につき、1~2名を担当し、ケアプランの素案、モニタリング、アセスメント、カンファレンスなどを受け持ち計画作成担当者が監修している。モニタリングは毎月、見直しは3ヶ月で行い、担当者会議では外部の専門職や医師からも意見を照会している。毎月のミーティングで全員分のカンファレンスを行うことで、事業所内でのプランや情報共有にもつなげている。	

H26自己・外部評価表(GHユトリア博多)3.31

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身状態についても記録しています。申し送り時やミニカンファを都度行い、情報を共有して介護計画の見直しをしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が多忙や遠方で、すぐに対応できない場合など、必要に応じて職員でサポートするなど、ご本人ご家族の負担軽減に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加させて頂き、家族様も一緒に参加できる行事を行えるようにしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の変更のお願いはせず、ご希望に添えるよう相談に乗っております。特に主治医がいらっしゃらない方もご相談にのり、提携病院などご紹介しています。	提携医の場合は2週に1回の往診があり、外部のかかりつけ医も希望あれば継続できる。他科受診の場合は家族に通院介助してもらいが、同行や事業所による介助も行っている。何かあった時には併設事業所の看護師に聞くことも出来る。医療情報は家族にも口頭で伝え、所内では記録や申し送りですべて共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内にある小規模多機能型居宅介護に看護師が在籍している。変化があった方は、その都度報告し、異常時には昼夜を問わず連絡できる体制を取っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを提出し、口頭でも本人様の日常生活を説明し、変わらぬケアの提供が出来るように配慮しています。お見舞いへも細目に伺い、退院に向けての情報収集も行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化及び看取りに関する指針を説明しています。終末期対象の方は今までいらない。	看取りの希望があった時には受け入れをしていく方針で、契約時に説明をしているが、現在までに事例はなかった。併設事業所での看取りはあり、事例共有をしたり、入職時の研修や、外部研修でもターミナルケアに関して学んでいる。提携医も24時間対応をしており、所内には看護師も勤務されている。	

H26自己・外部評価表(GHユトリア博多)3.31

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に一次救命の研修を行っており、内部研修で感染症が発生した時の対応の仕方など行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開設後に避難総合訓練を実施。11月には夜間想定避難訓練を予定しています。地域へは当施設は備蓄を備えており、万が一の際は避難所として活用していただける旨告知しています。	年2回の防災訓練を全館合同で行っており、消防署の立会や計画報告もしている。次回訓練は3月に夜間想定で行う予定である。運営推進会議で地域に避難場所提供の案内をしたこともある。全館スプリンクラーが備え付けられ、AEDも設置されている。入職時には新人に避難方法の説明も行っている。	地域との協力体制の構築のために、家族も含めて訓練参加の呼びかけをしてはどうだろうか。また、地域での防災情報や緊急時の連絡体制が作られることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入職員への接遇研修は入職後すぐに行うよう努めており、職員とご利用者の関係性が築きやすい言葉かけをするようにしています。	新入職時の研修で接遇に関して学ぶ他、接遇委員会を組織して言葉遣いや電話対応などもして力を入れている。外部研修や中途採用時にも指導し日頃から呼びかけなど職員同士でも注意している。個人情報も写真を含めて利用の同意を得たものだけに使用を留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、あくまでもご本人様の意思を尊重するようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前は朝食を11時位にトーストとコーヒーで召し上がっていた方は、その暮らしをそのままに現在も対応しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人様と相談しながらカット・パーマ・カラー等を行っています。衣服も本人様に選んできていただくようにしております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関しては、厨房で栄養管理されたものを手作りし提供しています。レクリエーションや誕生日会などの際はお菓子作り等を入居者様と一緒に行ってます。	1Fの厨房で全館集中給食しており、各フロアに配膳している。法人の管理栄養士がメニューを作成し、ランチョンマットに陶器の器で家庭的な雰囲気を楽しんでいる。調理レクでおやつ作りをしたり、テーブル拭きや配膳などを手伝ってもらうこともある。給食委員会によって感想を聞いて要望をだしたり、個別対応もしている。希望すれば職員も同じものを一緒に食べることも出来る。	個別の好みなどがあった時は家族との外食などで対応してもらっているが、ユニットや事業所での外食を計画されることにも期待したい。

H26自己・外部評価表(GHユトリア博多)3.31

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の病状や嚥下状態に合わせ、形態・量を考えて提供しております。味付けのりなど個人の嗜好品も食事の際召し上がっていただくなど支援しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、お手伝いをしております。就寝前は義歯を取り外し、洗浄保管しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の尊厳を守った支援を行うようにしております。また、ウォシュレットも活用し、清潔を保つようしております。	毎日、入居者全員の排泄チェック表があり、水分摂取量などもあわせて1枚で管理している。排泄介助時もプライバシーに配慮して気にならないように見守ったり、同性での介助をするように気をつけている。自分で出来る事は自分でしてもらい、後から聞いて把握している。担当者が状況を見ながらおむつやパットなど適切なものを提供し、夜間はポータブルトイレで対応することもある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量を記録し相応な水分を提供し、歩行やレクリエーションなど運動も取り入れています。又、便意を感じた時にはすぐにトイレに行けるよう配慮してます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に合わせて、ほぼ毎日入浴されている方もおり、時間も夕食後に入浴の希望があれば、出来るよう支援しています。	一人週2回から毎日でも入浴でき、午前から夕食後の対応もして自分の入りたいタイミングで支援している。各ユニットに1箇所ずつと施設内には特浴もあり必要があれば使うことも出来る。拒まれた際もタイミングを見て働きかけ、足浴や清拭で対応することもある。入浴剤を自分で用意したり、季節の行事浴などを楽しんでもらうこともあった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間を尊重し、状況に応じた対応をおこなっています。空調や照明(間接照明)にも配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様それぞれの病気や飲んでいる薬が分かるように、お薬手帳・薬情資料をまとめています。それに基づいて支援しており、薬の変更があった場合は、申し送り事項として、口頭と記録で行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中で、その方の生活歴などを伺い、裁縫が好きな方は針仕事を、絵を書くのが好きな方は塗り絵をして頂いたりして気分転換の支援をしています。		

H26自己・外部評価表(GHユトリア博多)3.31

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は気候に合わせて行っており、その他も季節や行きたい所の希望を伺って、こまめに外出するようにしています。	近隣の散歩などは日常的に行い、ドライブで空港まで行ったり、図書館に本を借りに行く方もいる。偏りのないように外出を支援し、車いすの方も同じように外出している。天気の悪い時も館内を歩いたり、1階まで遊びに行ったりもしやすい。外出レクを2ヶ月ごとに行い、買い物や庭園、山笠見学などにも出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を本人様がしている方はいらっしやいませんが、職員と外に買い物に行くような時は、入居者様にレジでのやり取りをして頂いています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご本人様宛に来たお手紙の返事を書くなど支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングには、入居者様達が作られた、カレンダーを貼り、毎週生花を花屋から配達してもらいフロアにも生の花が常時あるように心掛けています。	フローリング調の床材と観葉植物も各所に飾られ、全体で柔らかな温かみのある雰囲気を作っている。施設然としておらず全体的に洒落た造りで、家庭的でありながらも高級感も感じられる。毎週生花が届けられ、入居者と一緒に生けて華やかな空間に仕立てられていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者様の居室に遊びに行ったり、リビングのソファも自由に、思い思いに過ごされるよう配慮しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様・ご家族と相談し、使い慣れた家具等持ち込んで頂いたりしています。入居前にいた生活空間となるべく近い状態にしています。	各居室には介護ベッドが備え付けられており、タンスなどは入居者が好きな物を持ち込んでいます。基本的に洋室だが、希望すれば床にマットを敷いて布団で休むことも出来る。自分の作品や写真を飾ったりして思い思いの部屋づくりがなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーとなっており、室内も生活動線に合わせて家具の配置など考慮しています。		